

古墳時代2

鳥栖市教育委員会



川辺のまつりの跡（平原遺跡）

上の写真は平原遺跡から出土した古墳時代中期の土器群です。付近には自然に水が流れた跡があり、その脇にあたることから水との関わりがうかがわれます。この遺構が確認された場所は、柚比遺跡群のなかでも水田を作るうえで、もっともよい立地条件にあり、この場所で水田に関する治水・利水あるいは雨乞いなどの祭祀をおこなったのでしょうか。

現在、鳥栖市で確認されている最も古い古墳は3世紀末に造られた赤坂古墳ですが、このころの墓としては、本川原遺跡（永吉町）、日岸田遺跡（神辺町）などで確認されている3世紀末から4世紀前半の「方形周溝墓」と呼ばれるものがあります。4世紀後半から5世紀代の古墳は山浦古墳群（山浦町）・薄尾古墳群（平田町）などがありますが、柚比遺跡群では平原古墳（柚比町）、太田東方古墳（田代本町）の調査が行われました。

古墳時代前半期の鳥栖市域は、古墳の立地、分布、規模、あるいは副葬品の内容などから考えて、同時期に唐津や佐賀平野などで大規模な前方後円墳が築かれていることと比べても、大首長の存在というものが考えにくい地域です。



赤坂古墳（県指定史跡）

3世紀後半の築造と推定される、全長約24mの前方後方墳で、現在古墳と確認できるものの中では鳥栖地域最古のものです。また、九州においても古墳が出現し始めたころの最も古い古墳の一つに数えられています。南側に筑紫平野を望む立地で、標高約35m、周辺との比高差約10～15m、の丘陵の屋根に沿ってほぼ東西方向に主軸をとっています。後方部は一辺約16mの正方形で、高さ（比高差）は約2mを測り、東側に長さ約8mの低平な前方部を接続しています。前方部の幅はわかりませんが、5m程度のごく狭いものと思われます。周溝は幅約1.5～2.5m、深さは残りのいいところで約0.8mです。死者を埋葬する主体部は未確認ですが、一部削られた所から黄白色の粘土の塊が採集されたことから、過去に破壊された可能性もありますが、おそらく粘土槨（粘土で割竹形木棺を覆ったもの）だろうとおもわれます。墳丘くびれ部と周溝内から古式土師器の二重口縁壺・小型口縁壺・小型器台などが出土しています。このことから当時の鳥栖地域は近畿地方の影響を強く受けていたものとおもわれます。昭和62年3月16日に県指定史跡に指定されました。



調査中の赤坂古墳



平原古墳